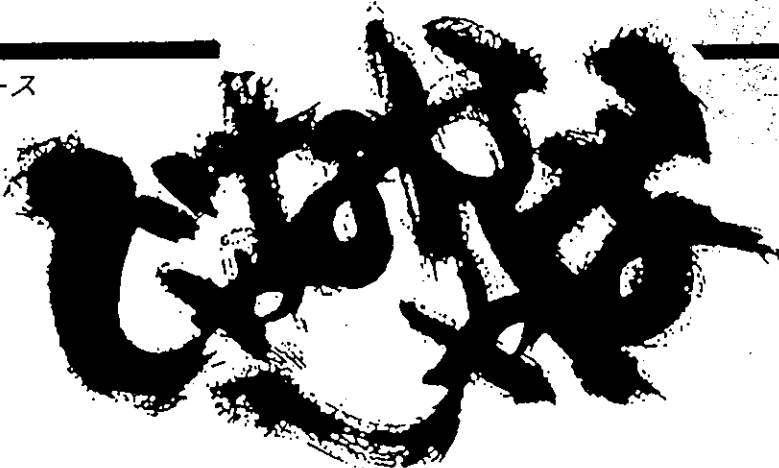


連絡先：東京都文京区本郷1-13-2第二東野ビル2F PARC自由学校  
TEL03(3816)0161 FAX03(3816)0162  
長野県南安曇郡三郷村温2059安曇野自由学校  
TEL0263(77)6708 FAX0263(77)6776  
郵便振替 東京5-367410  
口座名 ビーズ・プラン21世紀



PEOPLE'S  
PLAN 21  
CENTURY  
1992.10.1



「じやかしやび」は本紙の方で「今のようではない世の中」という意味です。じやかしやびは、DEした方が重宝をもって、おのれの自治と自決性を尊重することなく多様性を互いに尊重しつつ、共に生きることが出来る世の中。そしてそれは、継続するビーズの力が留りだす新しい世界です。

# PP21 置賜シンポジウム

## 村からの

## メッセージ



さわやかな秋風に稲穂がゆれる九月五日〜六日、山形県置賜において「農から世界をみる、世界を変える」と題したシンポジウム、ならびに第3回実行委員会が開かれた。農村から4つの問題提起①「コルフ場を追い出しているものは何なのか」②「開発に変わる農業の可能性」③「女たちは村をどう変えたい」④「共に生きる村をめざして」⑤「地域にとっての自給・自立と住民自治」⑥「都市と農村は共同の未来を築けるか」が出され、それをもとにのべ百人余りによって二日間わたる討論が行なわれた。今回のシンポジウムは、これからも長期的なプロセスとして「都市と農村」「男と女」など、さまざまな角度から対話を続けていくことの重要性があらためて確認されるところに、タイで行なうPP21の国際的なテーマとして語られてゆくべき、示唆に富む提起が出された。収穫の秋の前に準備討論から当日の夜食の世話まで、置賜の方々には多大な尽力をして頂きました。以下は、PP21コーディネーターであり農業問題からオルタナティブを追究しつづける大野和興さんの印象記です。

### 大野和興

周到な準備と事前討論を経て「置賜百姓交流会」と「置賜の明日を拓く女たちの会」が提出した問題提起は、すばらしかった。自分たちの日常の暮らし、営農、地域における人と人との関係をしっかりと踏まえながら、何をどう変えていくのか、それを普遍化するにはどうしたらよいか、といった問題意識の深さが聞くものによく伝わった。とくに、「女たちの会」が提出した問題は、これまで日本のフェミニズム運動において、空白地帯として置き去りにされていた農村の女の存在を照らし出した。農村のフェミニズムの誕生を感じた。

女の問題を含め、いま置賜がぶつかっている問題は、全国の百姓が、あるいは村の女が直面している問題であり、その根っこにあるものは都市の生活者、女、労働者がぶつかっている問題と同じであることが、話を聞いていてよく分かった。置賜の問題提起者は、自分たちの抱える問題を家庭、地域における人と人との関係や仕組みの問題としてどう解くかを語り、そのことをさらに大きな場で検証し、実践し、普遍化するために、都市との対話を呼びかけた。

こうした置賜のメッセージを、では参加者、とくに都市からの参加者はどのように受け止めたか。

残念ながら都市の側の対応は余りにも貧弱であった。村の側が「農業を拒否するものも使うものも同じ仲間として、今とこれからを考えなければ」というとき、都市生活者は、相変わらず食物の安全性を繰り返すだけであった。この地域でどう生きるから出発して、そうした自分の生き方を家庭や地域における人と人との関係、女と男の関係を含め、地域にどういう仕組みをつくるか、といった形で具体化しなければ、状況は変わらないと村がいうとき、話をもう一度「自分の生き方」といった次元に還元してしまふ、この十年いやというほど続いてきたおなじみの議論が持ち出されて、話が振り出しに戻ってしまった。

家庭と地域の崩壊、お年寄りの不安、過労死、性差別、民族差別、いま都市と農村をおおう状況は、挙げていけばきりが無いほど同じである。その根源のところにあるのは「企業社会・日本」なのだと思う。シンポジウムには、東京の労働者も大勢参加



しており、ここから新しい対話が生まれるのではないかと内心期待していた。だがそれも期待はずれに終わった。いまそれぞれの職場で何が起り、それに対して何をしようとしているのか、家では、地域では、企業は変わったのか、などなど、具体的問題がほとんどでないのだ。村が具体的問題、一個の人間から出発して、人との関係性、仕組みをどうつくるかを話し始めているのに、である。

ともあれ、私たちは村からのメッセージを受け取った。それだけでも置賜シンポジウムの意義は大きかった。対話を続けよう。私自身としては、農村フェミニズムとアジア・フェミニズムとの出会いと対話から何が生まれるか、ワクワクしている。

# PP21日本・中米セミナー

## グローバルなオルタへ新たな出会い

狐崎知巳

「新国際秩序」に対抗する民衆のオルタナティブと行動計画を推進することを目的に、中米とアジア・太平洋地域の民衆センター間の直接対話の場とネットワークを作り出すこと、これが八月二八、二九の両日、ニカラグアの首都マナグアで開催されたPP21日本・中米セミナーの中心テーマだった。これまでの日本・中米関係を仕切り直し、米国も日本政府も介在しない市民社会どうしの対話から国境をこえた参加民主主義を確立していこうということだ。中米側のこの意気込みに対して、日本から参加した市民運動家、宗教者、研究者、弁護士、学生ら21名は、すこい当惑を覚えながらセミナーに臨んだ。

なり中米地域に戦略的な利害関係をもちたないことから、日本では政府と財界そして市民社会が一体となって北と南の掛け橋として機能しながら、中米諸国の和平と民主化そして発展に協力しているのではないか」という幻想を捨てざるをえなくなった。

### ■中米民衆運動の勢い

このように中米の民衆セクターが日本に対して抱いてきた幻想を打ち砕くと同時に、変な期待をもたれた私たちがむず痒さをなくすという意味では、この二年間の活動はすく成果をあげたとと言える。しかし、それならば「水俣宣言」の精神に基づいて日本と中米の市民社会が二つのオルタを提起して一緒に行動していこうと中米側からもちかけられると、ちよっと待ってと言わざるをえなかった。これまでの日本の中米への関心の多くが、自らのイデオロギー、「反米」や「反帝国主義」を投影する形でサンディニスタやアラブンド・マルティの勢いや動向にあったことが否めず、政権交替や和平協定締結によってかなり関心が萎んでいったことを見てきたからだ。これは日本に限られることではないが、もっとも大変な時期に後向きになるのでは「連帯」とは言えないだろう。なお、二つのオルタとはネオリベリズムに對するオルタ、そして既存の日本・中米関係に對するオルタのことである。

前置きが長くなったが、これも皆さんに今回のPP21セミナーを準備し参

### ■参加民主主義のための

#### ■基盤づくり

現在、中米地域ではネオリベリズムが全盛時代を迎え、構造調整政策が急ピッチで進められている。メキシコとの間に自由貿易協定が締結され、ネオリベリズムの地域統合やグローバル化も国内での議論が合意ぬきに急速に推進されている。このイデオロギーは経済のみならず、政治や教育、宗教などあらゆる場でオルタの可能性がないこと、歴史が終わったことを民衆に確信させようと攻勢をかけている。だが、ネオリベリズムを支える条件、つま

り非伝統的輸出産品を軸とする交易条件の改善や自由化による大規模な援助や投資の流入がないまま、少数の貿易商人と大農園に利益が集中する一方、国民の大半が一層貧困化するという矛盾がどんどん蓄積されている。これももとも明白なのが、民衆運動と米國政府の干渉を相変わらず頼みの綱とする旧地主の間で土地の所有権をめぐる緊張状態がつづくニカラグアで、見た目にも明らかのように経済活動人口の六〇％が失業するなか生産活動がほとんど停滞した状態にある。

### ■日本に対する幻想

このための、ニカラグアやエルサルバドルでは、サンディニスタや民主連合党が次期選挙で政権を奪取する可能性が高い。しかし、八〇年代を通して民衆運動と左翼政治運動が質的に成長を遂げたことを示すのは、このような好機を前にして従来のようにイデオロギーやナショナリズムを用いてネオリベラル政権を責めたて、ゼネストなどを通して民衆勢力に上からの動員をかけたことを追込むという戦略をとるのでなく、政権掌握後の対外関係や経済運営、民衆運動との関係を具体的に現実的に考慮し、まず労働者、農民、教員らの伝統的な民衆セクターに加えて、

今回のセミナーで中米諸国の第一級の民衆運動の指導者たちを前に、日本の対中米ODAの現状を報告した某JICA専門家も、「日本の中米援助を知りたければワシントンに聞きなさい」「たとえば米国は、対ニカラグア援助を一五〇人以上で運営しているが日本は二人だけ、しかもニカラグアに赴任したがる専門家さえいない」という真実を率直に語り、復興援助に大いなる期待(幻想)を抱いて参加していたエルサルバドルのフアラブンド・マルテ

### ■日本に対する幻想

中米諸国の知識人や民衆運動の指導者は、日本に対してとてもあまいまいなバラ色のイメージを抱いてきた。九〇年九月に東京で開かれた第一回日本・中米セミナーに参加した中米諸国の政治・市民社会のリーダー14名は、欧米では著名な自分たちの著作や活動が日本ではまったく知られていないことにすぐ気づかされた。つづいてセミナーのほか、市民運動との集会や外務省、通産省、経団連などの会談を通して日本政府の中米政策やアジア政策の実態を知るなかで、「日本は米国とは異

なり中米地域に戦略的な利害関係をもちたないことから、日本では政府と財界そして市民社会が一体となって北と南の掛け橋として機能しながら、中米諸国の和平と民主化そして発展に協力しているのではないか」という幻想を捨てざるをえなくなった。

今回のセミナーで中米諸国の第一級の民衆運動の指導者たちを前に、日本の対中米ODAの現状を報告した某JICA専門家も、「日本の中米援助を知りたければワシントンに聞きなさい」「たとえば米国は、対ニカラグア援助を一五〇人以上で運営しているが日本は二人だけ、しかもニカラグアに赴任したがる専門家さえいない」という真実を率直に語り、復興援助に大いなる期待(幻想)を抱いて参加していたエルサルバドルのフアラブンド・マルテ



女性、先住民、宗教者、都市住民運動、中小企業主、エコロジスト、さらには児童労働者ら新たな民衆運動の主体との間で対話を繰り返して、対等な関係づくり、参加民主主義のための政治的・経済的な基盤づくりを行なっていることである。政党の役割とは政権の掌握にあり、その目的は規模としては小さなしかし必要な権限をもった国家を通して民衆セクターが自立し、独自の経済基盤を確立するためのスペースを確保することにある、これがルーベン・サモラ氏の言葉であり、サンディニスタの代表的な理論家アレハンドロ・ベンダーニャ氏の理念である。

■下から内部から

のつきあげ

前衛主義や家父長主義（パターナリズム）、官僚主義的統制が強かった中米の左翼政党やゲリラ運動にこのような変化をもたらした最大の要因は、まさしく民衆運動の成長、とりわけ女性



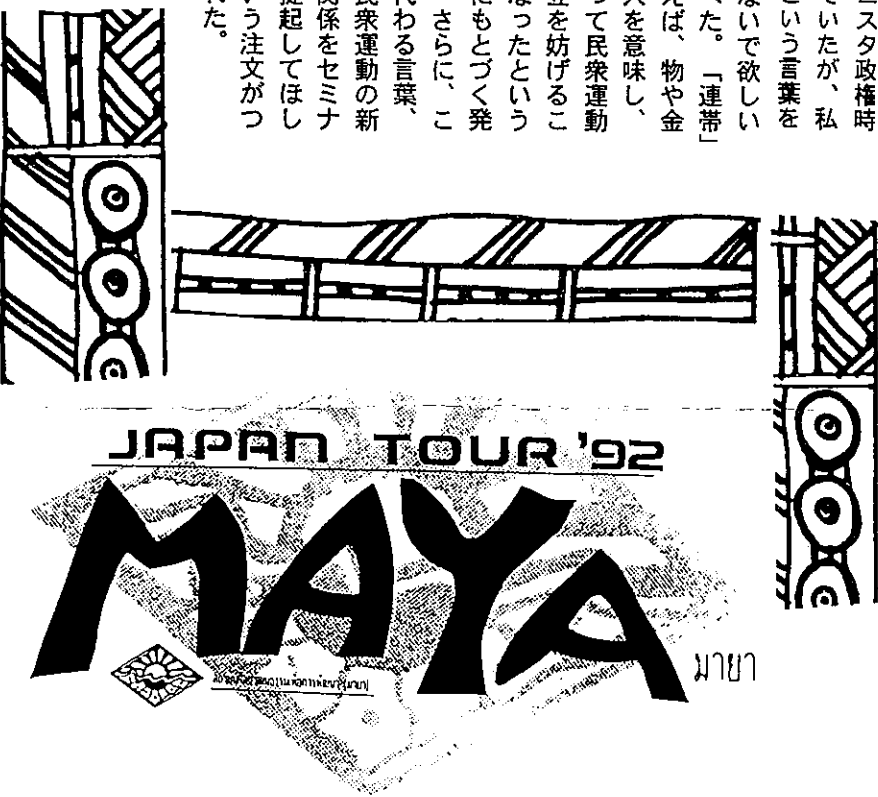
ミルナ・カニングハムさん  
抵抗の500年キャンペーン代表、国会議員

や先住民らを主体とする新たな民衆運動の興隆、下からの内部からの突き上げにある。人権尊重を主張するだけでゲリラのシンパとして苛酷な弾圧を受け続けるグアテマラのさまざまの民衆運動も、グアテマラ民族革命連合と政府間の和平交渉を民衆セクターの参加めきに行なうことは認めないとして、交渉への参加を要求するとともに、とりわけ先住民の代表めきに「先住民問題」を討議し続ける両者への批判を強めている。また、自宅を爆破されるなどの弾圧を受けながらも、米軍の駐留や政府軍批判を続けるホンジュラスでもっとも戦闘的な労組連合の書記長を務めた女性グラディス・ランサ氏も、新たに女性の立場からオルタを提起する民衆運動をはじめている。

これまでに国家による保護や国際連帯運動の物質的支援に依存してきたニカラグアの民衆運動も大きく変わりつつある。セミナーの裏方に徹していたパトリシアさんはサンディニスタ政権時代には国際連帯を統括していたが、私たちに真つ先に「連帯」という言葉を使わないで欲しいと述べた。「連帯」といえば、物や金の流入を意味し、かえって民衆運動の自立を妨げることになったという反省にもとづく発言だ。さらに、これに代わる言葉、国際民衆運動の新たな関係をセミナーで提起してほしいという注文がつけられた。

■オルタへ

現在、代弁者を拒否し、独自性と多様性を尊重しあいながら民族やジェンダー、社会セクター、そして国境の壁を崩し、歴史と文化に根づく自治と経済的自立を作り出す力強い民衆運動が、中米のみならずアメリカ大陸の各地で抵抗の五〇年キャンペーンのもとで展開されている。私たちが、どのようにこの呼び掛けに応えていくことができるのか、そしてアジア・太平洋の民衆運動とともにグローバルな「オルタ」を作り出していくことができるのか。「中米の人びとと手をつなぐ会」では、中米の民衆運動と直接対話を通じて、これを日本社会に伝えることを通して、「連帯」に代わる言葉、関係を見いだしていきたいと思う。



タイの劇団マヤ・日本ツアー公演

「ほほえみの国」

「こんにちわ。ほほえみの国タイへようこそ！  
マダム不死鳥は“超幸福な”大使として、あなたに《タイに来て、最大限に楽しむ方法》を演劇を通してお知らせできることを光栄に思います。  
この日本公演を通じて、21世紀にむけてタイと日本人の、実りある創造的な友情が育つことを希望してやみません。」

ほほえみの国とよばれるタイの数十万の人々が、民主化を求めて立ち上がっています。5月バンコクの王宮前広場で、その民衆に軍の銃弾が向けられた事件は記憶に新しいところです。「…民衆の姿を目に見えるようにする、民衆にもっと力を！」  
このタイ・ピープルズプラン21のテーマのもと、ユーモアとアイロニーに富んだアーティスティックな劇団MAYAが、タイ社会を反映しかつ詩や寓話をふんだんに盛り込んだ作品を上演します。お見逃しなく！

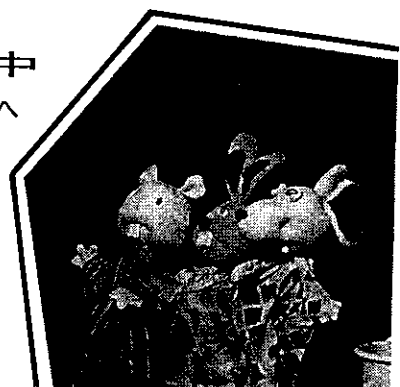


公演スケジュール

\*チケット発売中

- 10/11 京都精華大学
- 13 堺市婦人会館
- 17 東京・東長寺P3\*
- 18 東京・演劇ワークショップ\*
- 20 国分寺本多公民館\*
- 22 小諸市民会館\*
- 25 東京・水元青年の家

03 (3816) 0161へ



# 世界の民衆の動きと合流するPP21プロセス

武藤一羊

「日本列島を舞台に最初の「ピープルズ・プラン21世紀（PP21）」民衆行事がおこなわれ、水俣宣言が出されて三年、この十一月と十二月にはタイで第二回のPP21プログラムが開かれます。水俣ではPP21は一回限りの行事ではなく、世界の民衆が「希望の連合」を形成していく継続的なプロセスだと確認したわけですが、本当にそうなのだろうか。

■ええ。はつきりそう言えると思いません。PP21への関心と共感の世界的な広がりは予想を越えたといっている。いろいろな背景がありますが、とくに八九一九一のベルリンの壁の崩壊、ソ連の消滅といった衝撃的な世界構造の変化、また湾岸戦争に続く新世界秩序のもとの「新自由主義」の猛威に第三世界の民衆が直面するなかで、既成の民衆運動の枠組みや考え方が破産する。そのなかで水俣宣言の考えが新しい世界変革のあり方を模索する人々の関心にびたつときたということではないかと思うのです。と言うより、ここ二年ほど、世界の諸大陸で期せずして同じ方向での新しい考えの模索が始まり、PP21はこの潮流と響きあった、というか共振をおこしたのじゃないかと思うんです。PP21は世界的プロセスになりつつある、といってもオーバーじゃないと思っています。

「ふーん。そんなこといわれても話が大きすぎてピンとこないんですがね。」

■うん。では狐崎さんが報告しているPP21日本中米セミナーはどうでしょう。この会議は日本のPP21に参加したゴロステイアーさんの発意で開かれたんですが、中米の民衆運動・闘争の中心を担う運動や知識人が参加して、中米独自のPP21委員会をつくることになりました。そして中米とアジア太平洋の民衆の出会いを目指してタイのPP21に参加することがまりました。

サンディニスタのリーダーのアレハンドロ・ベンダーニャさんは、雑誌「オルタ」二号のインタビューで「水俣宣言を初めて読んだとき、これはまさに私たち自身の思想だと感じた」と言いました。これは今度マナグアで会った中米の人々が異口同音に言っていたことです。エルサルバドルのフアラブンドマルチ民族解放戦線のリーダーであるルーベン・サモラさんは、20世紀型の革命は前衛党の率いる労働者階級による権力奪取を目指したが、中米革命は二一世紀型革命への過渡にあると言います。そこでは民衆運動によって形成される市民社会が国家に浸透し、国家を変容させるだろうとのべ、民衆運動の脱政党政化、前衛政政という理念の否定という極めて大胆なテーゼを提起しました（この演説ははずれどころか詳しく紹介したいと思えます）。ラテン・アメリカでは二年前から左翼政党がサンパウロ・フォーラムで、新しい事態についての議論をすすめています。マナグアで今年八月に開かれた第三回会議では、ほぼサモラさんのような考えが大勢を占めたといえます。水俣宣言の「越境する参加民主主義」、「民衆際自治」、「希望の連合」などという考えは、このような模索と響きがあった。サモラさんにPP21について聞いてみると「ラテン・アメリカで熟しつつある考えとまったく一致していて驚いた」という答えが返ってきました。



ルーベン・サモラさん

■ラテン・アメリカはそうかも知れませんが、PP21は別に左翼政党が集まる場ではないと思うんですがね。あなたも……。

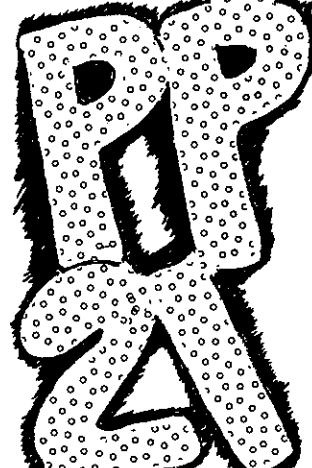
■ハハハ。むしろ逆じゃないですか。左翼政党の方が根本的に別のものに脱皮しなければ現実と無関係になるといって、巨大な歴史的な地滑りが起こっているという見方をしています。そのなかで、パラダイム、つまり用語体系プラスそれを語る専門家集団、プラスそれに基づく実践体系、全体の転換が必要だと自覚されれば、政党だろうと、NGOだろうと、労働組合だろうと、これまでの分限をひたすら信じて、その範囲でやっていくわけにはいなくなる。そのことがラテン・アメリカの左翼政党に起こっているんだと思いますね。だから同じような模索はNGOの世界にも起こっていて、PP21への関心が高まってきた。

「もうちょっと具体的に。」

■国際的なNGOと民衆組織（PO）のネットワークで、PP21に注目して議題にとりあげたものを数えてみると、一九九〇年八月の第一回日本中米セミナー（東京）がPP21のプロダクトでしたけれど、それについて、開発問題にかかわる世界的なNGOのネットワークであるIGGRI（国際草の根イニシヤチブ・グループ）が一九九一年一月メキシコでの会議で水俣宣言を配り、タイのスリチャイさんと、日本から私が招待され、PP21の特別説明会が持たれました。そしてIGGRIは、PP21の共催団体に加わったのです。

この間、ヨーロッパでもPP21への関心が高まりました。九一年にハンブルグでヨーロッパNGOの大規模な集会所が開かれ、IMFや世銀の権力への民衆の対抗行動をもちこんだハンブルグ宣言が採択されましたが、このグループは水俣宣言に共感し、十二月にはドイツのNGOなどヨーロッパの参加を得て、タイのチェンマイで、PP21との共同会議「南北対話」集会所が開かれました。ここでも議題はPP21でした。今年の六月には、フランスでヨーロッパNGOが、EC統合を控えて、オルタナティブな社会をもとめて大結集するカイロス九二という華やかな行事がもよおされましたが、そこにはタイのPP21の代表であるバントーン・オランダムさんが参加、タイPP21にはカイロスの代表が参加するという相互乗り入れが予定されています。また七月初めには、PP21国際共催団体のなかでもっとも熱心にPP21プロセスを推進しているACFODの主催で、「アジア太平洋対話」という集会所がおこなわれ、南太平洋の島々のNGOや東チモール民族抵抗評議会の代表、パプアニューギニーとインドネシア領西イリアンの人々などがはるばるやってきました。ここでもPP21について詳しい報告がおこなわれました。これらは

ほんの一部にすぎません。このほかにPP21を推進しているアジア太平洋の三〇以上の国際団体があります。PP21は、ひとつの新しい潮流として世界的なオルタナティブへの流れに合流し、そのことで新しい現実を創りだしつつある、と言えるでしょう。



PP21が世界的認知を得つつあるのはわかりましたが、それは水俣宣言に盛られたPP21の考えというか、思想というか、そういうものによるのでしょうか。

■それはたしかにあります。われわれの知らないところでも、水俣宣言がいろいろな出版物に翻訳・掲載されているようなのです。九月のバンコクの共催者会議に初めて参加したアジアの先住民の国際組織AIPPのルイトウイさんは、八九年に水俣宣言を手にいれたとき、その最初の段落に衝撃を受け、これだ、と膝を打って、全文をニューズレターで組織全体に流した、と言っていました。初めて聞く話でした。しかし、それだけでなく、PP21で、ピブルの集団が多様性を認めあいつつ横につながりあっているスタイル、国際的な問題が、一つの国の草の根のコミュニティのどまんなかで議論され、行動に移されるという新しいやりかたなど、日本のPP21が試みた方式も強い印象を与えたようです。真空のなかの国際会議でなく、それ自身が主催団体に新しい運動の関係をつくりだすプロセスだという点です。日本ではそのフロウアップが十分成功したとは言えませんが、今回のタイで、どうなるのか。それが注目されます。つまりPP

# コーディネーターズ会議報告

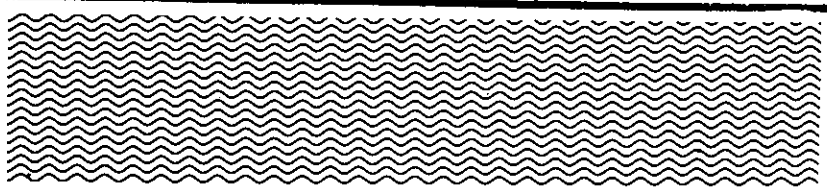
去る9月17日夜、PARC事務所でコーディネーターズ会議が開かれました。主に在京の方の他、水俣から谷洋一さん、安曇野から神田浩史さんがみえ、10余名の参加がありました。

置賜シンポの報告(大野)、PP21日本・中米セミナーの報告(武藤)、タイでの準備会議の報告(井上)、10月の劇団MAYA公演ツアーの報告(花崎)を受けたあと(以上詳細は本紙別載)、タイへぜひ行って欲しい人に働きかける担当を次のように決め、9月30日までに日本からの参加者リストをつくってタイへ知らせることになりました。

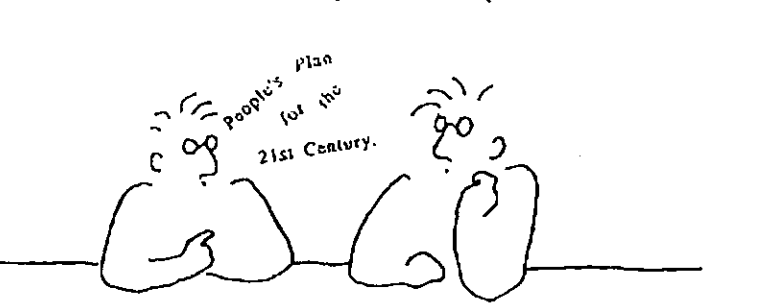
＊各プロジェクト参加者のとりまとめ担当者

- 農民—大野、労働者—APWSL日本、女性—加地
- 都市貧民/ツーリズム/宗教と文化/平和と人権—井上、
- 先住民・少数民族—花崎、
- 青年・学生/子供の人権/持久的民主化と発展—神田、
- 消費者/水原、自然資源運営と環境/谷、
- メインフォーラム/武藤

さらに10月31日～11月1日のPP21実行委員会は、タイに臨む前の最後の会議として、タイPP21に参加する人には、できるだけ出席してもらって、タイで何を提案していくのかを話し合うとともに、タイ以降の日本国内でのPPプロセスにつなげていくような場にしていくことを確認しました。(PP21事務局)



21を通じて、タイの民衆運動が得をする、新しくなる、という状況ができるかどうかです。九月のバンコク準備会でできた報告だと、PP21は確実にタイ国内のプロセスになりつつあるようです。特に少数民族と労働が注目されます。PP21をつうじて、タイの少数民族が初めて一緒に会議を持つ、第一回少数民族会議が開かれるわけですから、それに世界の先住民の代表が出て、先住民・少数民族会議がおこなわれる。そこにどんな発見があるのか注目されます。



四日と三晩にわたって、円卓会議や分科会、多様な人びとの交流があり、最終日にこれらの時間経過中の意見が全展開され、討議され、まとめられて、八三項目の行動計画となったのですが、ほとんどが日本企業や政府を対象とした、私たちの行動提起となったのは、この会議の目的からして当然のことでした。もう一つ、この会議の宣言において、アジア太平洋地域の消費者団体に対して「他の市民団体、とくに環境、女性、労働者、青年問題にたずさわっているグループ、有機農業や第三世界製品の産直店など新しいエコロジカルな活動体とともに、社会倫理、エコロジ、公正さを基礎にした消費社会の新しいビジョンを実現するネットワークを創る」ことを呼びかけています。

多国籍企業に対抗するのに私たちの行動もまた、このような連帯が必要であるためです。九二年の夏、PKO法が成立。また、「国連の多国籍企業行動規準(案)」は、この一七年間、多国籍企業行動規制に期待してきた発展途上国の人々をはじめ私たちを振りざり、ご破算。この二大頂点が示すように、PP21消費者会議の行動計画は、今振り返ってみればつましい日常性のあるものが多いのに、現に行動しているものはどれか、と探すありさまで頂点をなす社会的変革に迫る力を発揮できないまま低迷を続けてきています。

八九年の消費者会議に出席した消費者代表たちの国際組織であるIOCU(国際消費者機構)が、この三年間のうちに運動の後退をはじめたのは否定しようもありません。アジア太平洋地域の消費者運動に、ぴりぴりとした緊張感を与えながら、多国籍企業への警告を発し、運動を提起してきたIOCUアジア太平洋地域事務局は、九〇年から活動を縮小、あるいは変更してきています。PAN(農業行動ネットワーク)とIBFAN(国際乳幼児食品監視行動ネットワーク)は、この事務局から分離されました。

九一年夏、香港で開催したIOCU第一三回世界大会では、食料・農産物の貿易自由化を含めて自由市場経済を擁護する先進国の有力な消費者団体に、第三世界・途上国の消費者団体・グループや私たち日本の消費者団体は、激しく反論、決議に貿易自由化を認めない一項は明記しました。

## 89 アジア太平洋消費者会議

### 「大宮宣言」後の消費者運動

日本消費者連盟・水原博子

「日本その他諸国の多国籍企業の反消費者的行為の追及」「日本その他関係国政府の責務を果たさせること」「アジア・太平洋地域の消費者の権利の確保」「消費者の主体的活動と運動の連帯を国際的に強めること」これは、八九年夏PP21、消費者代表がアジア太平洋消費者会議を開催した時の会議の目的です。「日本その他の諸国」という表現はとっていませんが、アジア太平洋地域において、その行為の追求を受けるのは、主として、日本であることは、この会議出席者に明々白々のことでした。

去る八月二一～二二日、全国の自由学校スタッフが集まる交流合宿が行なわれました。現在自由学校は、全国で五か所。今年一〇年目をむかえた東京のPARC自由学校、三年目の札幌自由学校「遊」、PP21ふくおか自由学校、昨年からの安曇野自由学校、そして今年スタートした富山自由学校。それぞれ地域の独自性を生かした民衆の学びあいの場をつくらうと模索しています。

去る八月二一～二二日、全国の自由学校スタッフが集まる交流合宿が行なわれました。現在自由学校は、全国で五か所。今年一〇年目をむかえた東京のPARC自由学校、三年目の札幌自由学校「遊」、PP21ふくおか自由学校、昨年からの安曇野自由学校、そして今年スタートした富山自由学校。それぞれ地域の独自性を生かした民衆の学びあいの場をつくらうと模索しています。

## アクションプランの検証①

それでも、消費者運動は国際的に新しい連帯の相手が増え、IOCUの枠を越えた民衆運動の波動にあつた活動もおきています。これは、低迷しているとはいえず、八九年PP21・アジア太平洋消費者会議の「大宮宣言」や行動計画が生み出した、新しい希望の連帯の一つでありましょう。

### 自由学校全国交流

#### 合宿開かれる

去る八月二一～二二日、全国の自由学校スタッフが集まる交流合宿が行なわれました。現在自由学校は、全国で五か所。今年一〇年目をむかえた東京のPARC自由学校、三年目の札幌自由学校「遊」、PP21ふくおか自由学校、昨年からの安曇野自由学校、そして今年スタートした富山自由学校。それぞれ地域の独自性を生かした民衆の学びあいの場をつくらうと模索しています。合宿は富山で行なわれ、これまでの経過や現状を話しながら、今後の共同企画や参加者間交流の可能性などを話し合いました。また、開発教育のワークショップへの関心が寄せられ、これからスタッフトレーニングを行なっていくという合意も得られました。さらに全国で案を持ち寄り、来春には自由学校としての共通の理念・めざすものを練る予定です。

# PP21タイ準備会議報告

PP21タイ99年タイのプログラム

暹羅でPP21のシンポジウムがちょうど開かれていた9月6日から9日まで、バンコクのドン・ムアン空港に近いWE=TRAINという研修センターでタイPP21の準備会議が開かれました。6-8日は武藤一羊さんが参加し、ちょうど同じ時期に開かれていたACFODの会議に出ていた加地永都子さんが7日だけ、暹羅の会議が終ってから出発した井上は7日夜から9日まで参加しました。

タイ側からは4月のPP21福岡シンポジウムに参加してくれたバントンの他、スリチャイ、ブント、ガウィン、南からの調査団で日本に来たデート、女性のレックら、タイでPP21の準備に忙しく動いておられる面々が参加しました。タイ以外では、水俣会議の基調報告に共鳴し、PP21の少数民族会議をタイの山岳民族とともに組織しようとしているインドのナガ族の一員であり、アジア先住民権利条約の運動を担っているルイトウイ、フィリピンのジョエル・ロカムラ、香港にある国際共催団体 ARENAのマイテットとビーナ、ACPPのタンシットとフランス、などなどが参加しました。

タイの民衆運動の状況について、都市貧民、女性、労働者、農民、山岳民族のそれぞれについて説明を受けた後、状況についての分析とPP21の取り組みについてを、交差させながら話し合いました。いよいよPP21の国際民衆諸行事のスタートまで2ヵ月半となり、かなり具体的なことまで突っ込んだ話し合いになりました。メイン・フォーラムのもち方、議題、招待する人の規模、財政など、で89年に日本でPPの準備をしていた頃の議論を思い出しました。

今後の進め方として、タイ側からの代表5人と ACFOD、香港の国際共同団体、アジアの先住民の組織 AIPP、PARCからそれぞれ各1名、計9名で国際的な運営委員会を決めて相談していくことになりました。この運営委員会の最初の仕事は海外からの参加者名簿をつくることです。ただし、日本からの参加者は日本のPP21実行委員会（さらに具体的にはそのコーディネーターズ会議）に委ねられています。

①農民	11月22(OR28)日~12月2日	コンケン
②労働者	11月26日~12月3日	バンコク
③出稼ぎ女性	12月3日~5日(予定)	チェンマイ
④女性は暴力に打ち克つ	11月25日~12月1日	バンコク
⑤都市貧民	未定	バンコク
⑥先住民・少数民族	11月22~25日	チェンマイ
⑦第三世界のツーリズム	12月1~4日	ブーケット
⑧学生・青年	12月1~4日	バンコク
⑨子供の人権	未定	バンコク
⑩宗教と文化	12月1~5日	スラタニ
⑪自然資源運営と環境	11月27~29日	ソクラ
⑫平和と人権	12月2~7日	チュラロンコン大学
⑬持続的民主化と発展	11月20~23日	チュラロンコン大学
⑭消費者	未定	
グリーンピース：核輸送	未定	
⑮メイン・フォーラム	12月5~9日	チュラロンコン大学と タマサート大学

## メイン・フォーラムのスケジュール

5日 18:00	非公式の集いとオリエンテーション
6日 9:00-12:00	オープニング
14:30-16:00	階層別フォーラムに関するパネル討論 農民/労働者/都市貧民/先住民と 少数民族/青年と学生/子供たち
16:30-18:00	テーマ別ワークショップに関するパネル討論 持続する民主化と開発/第三世界のツーリ ズム/自然資源管理と環境/参加する文化 平和と人権
19:00	集い
7日 9:00	問題提起：世界を考える 地域レベルの問題を国際レベルと関連する ものとして理解することが目的
11:00-17:00	テーマ別分科会 *参加民主主義を築く *資源の管理とエコロジ再生 *オルタナティブ・システム *先住民の普遍的権利と1993国際先住民年
19:00	集い
8日 9:00-10:30	「どのように連合を築くのか」についての全体 会議 南-南/北-南/都市-農村/ジェンダー グループ討論 連合を築くための行動計画(各階層間の連 帯、参加者間の連帯をつくることをめざす)
16:30	集い
9日 9:00-15:30	自由交流：ピープル・バザール (参加者がそれぞれ自由にワークショップ ビデオ上映などをよびかける。) ☆ (同時に宣言文起草)
15:30	宣言と行動計画の採択 各分科会、ワークショップには報告者がい て討論を文書で報告し、起草委員会につな げる。
10日	行動デー：祭り、集会、文化行事

## ＜メイン・フォーラムのスケジュールと議題＞ (右表参照)

11月20日頃から12月4日の間にタイ各地で開かれる、農民、労働者、女性などの階層別ワークショップ、「持続する開発と民主化」などのテーマ別ワークショップの内容を集約し、階層、テーマ、ジェンダー、国境を越えた連帯をどう築くかを探ることが目的。名称も「連合を築くためのフォーラム」としてはどうか、ということが話されています。なおこのメイン・フォーラムの日程のうち5日から8日までは公開しない会合になります。

\*すべてのワークショップ、分科会、フォーラムで採択された内容は、それに賛同する人(つまりその計画を実行する人)のサイン入りで、共通の行動計画のなかに盛りこみます。宣言の起草委員会は最初の日に選出します。

## ＜エキスポージャー・プログラム＞

上記のようにメイン・フォーラムは限られた人数しか参加できないこともあって、日タイ民衆フォーラムの岡本和之さん(バンコク在住)と話し合っ、日本からの参加者のためのエキスポージャー・プログラムを下記のように行なうこととしました。これはPP21タイの正式プログラムとは別のもですが、メイン・フォーラムの最後の2日間に合流します。参加者は実費の他に200ドル(約2万5千円)をタイPP21のオブザーバー参加費として納めることになります。

日タイ民衆フォーラムのメンバーが通訳・案内人としてついでくれます。

カンチャナブリと東部臨海工業地帯	12月5~8日
南部ラーノート(えび養殖など)	12月5~8日
東北タイ(コーチョーコとNGO)	12月3~8日
カンボジア(自衛隊派兵の現場)	12月11~17日

☆タイPP迫る☆

(文責：井上礼子)

10月31日~11月1日は92PP21・第4回実行委員会へ!